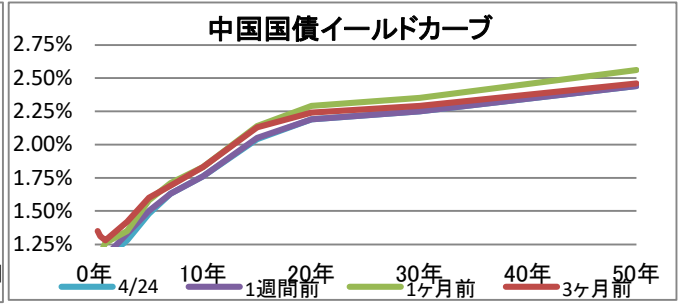
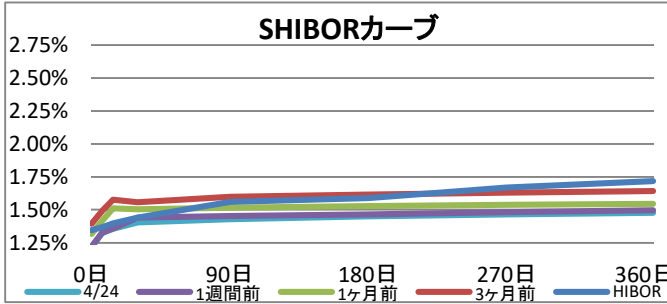


1.市場概況

基準レート		2026/4/24	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	6.8674	+0.0052
	JPY/CNY	4.2944	-0.0068
SHIBOR	3M	1.4275%	-0.0250%
国債利回り	10年	1.76%	+0.00%
上海総合指数		4,079.90	+28.47



(1) 概況

国際金融市場は、中東和平をめぐる混乱と原油相場やインフレ等の先行き不透明感に対し、様子見の姿勢を維持する方向感のない展開となったが、株式市場はこの間にも進んでいるAI開発や半導体需要への期待から最高値を更新し、債券市場はインフレ懸念から下落（利回り上昇）に転じていたものの、パウエルFRB議長の司法省捜査終了によるウォーシュ議長候補による利下げ期待を材料に下げ（利回り上昇）幅を縮小し、外為市場ではドルがやや強含み、金はドル高等から上値の重い展開となり、ビットコインも上値が重く小幅な値動きに終始。

中国金融市場では、短期資金市場において金利水準の低下が進む中、株式市場は中東情勢とAIや半導体関連を材料に上値は重いものの上昇を続け、債券市場は世界的には長期金利が上昇に転じる中で利回り低下基調を維持し、外為市場では4月初旬からの急速な元高のスピード調整から1ドル=6.83台に戻す展開。

中国では、習主席が、サウジアラビア皇太子との電話会談で、ホルムズ海峡における正常な航行の維持と紛争の即時全面停止を主張し、李強総理はエネルギー関係の国務院会議を開催し、国際情勢の変化を受けてエネルギーシステムの強靱性と安全保障力強化の必要性を強調し、何立峰副総理は、米ブラックストーン会長との会談で、同社を含む多くの外資系企業との相互利益獲得とウィンウィン関係強化を歓迎し、国務院は、サービス業の拡大に関する意見で、2030年までの同産業規模100兆元達成や「中国サービス」ブランドの更なる育成等の方針を示した。中国人民銀行・潘行長は、G20財相・中銀総裁会議で地政学的な衝突が世界のサプライチェーンに与える影響を懸念しつつ、多国間主義の維持やG20の役割発揮、マクロ経済政策の協調強化を通じて世界的な課題に対処すべきと主張し、IMFに対しては、国際経済環境の変化に伴い、経済モニタリングを一層強化し、リスクを客観的に評価した上で、よりの絞った的確な政策提言を行うべきと主張し、宣副行長は、世界ソブリン債務会議で、中東情勢が世界的なインフレ期待や資金調達コストを高め、途上国の債務返済負担を増加させることに懸念を表明しつつ、多国間協力を通じて民間部門が債務再編に対応できる環境を整備すべきと主張。財政部は、国債流通市場においてマーケットメーカー支援オペを実施し、NAFMIIは、変動金利債券市場の整備に関する推進会議を開催。上海市政府は、「国家デジタル経済イノベーション発展試験区（上海）実施案」を公表し、クロスボーダー人民元決済でブロックチェーン基盤インフラの応用を強化する方針を示した。なお、中国人民銀行は、最優遇貸出金利（LPR、1年物3.0%、5年物以上3.5%）の11か月連続据え置きを決定。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、リバースオペ期日30億元に対して、リバースオペ170億元を実施し、140億元を供給。

(3) 主な経済指標

特になし。

2.資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	1.2190%	1.3000%	1.3108%	
1W	1.3240%	1.0000%	1.3728%	1.2800%
2W	1.3550%	1.4100%	1.4065%	1.3200%
1M	1.4050%	1.7500%	1.4386%	1.3200%
3M	1.4275%	1.4800%	1.4400%	1.3500%
6M	1.4505%			1.4000%
9M	1.4640%			1.4200%
12M	1.4780%			1.4500%

中国人民銀行は、金利水準は低位で安定しているものの、納税等により資金需給がややタイトになったことから資金供給を続けており、月内物は概ね1.3%台で取引され、ターム物も1カ月が1.4%前後に低下して出合っている。

NCD市場の金利水準も、低位で安定した状況に変化なく、ターム物の金利水準は1カ月が1.30%近辺、3カ月が1.3%台半ば、6カ月は1.4%前後、1年物も1.4%台半ばでまで低下している。

(2) 米ドル資金（本土内）

	BID	OFFER
ON	3.65%	3.66%
1W	3.72%	3.75%
1M	3.75%	3.77%
3M	3.75%	3.85%
6M	3.85%	3.90%
12M	3.80%	3.90%

中国国内市場では、資金需給のややタイトな状況が続いており、月末を超えるターム物の出しも依然限定的で、1カ月から3カ月が3.7%台後半で出合っている。

3. 人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	1.11%		1.36%	1.44%	1.49%
6M	1.12%		1.39%	1.47%	1.52%
1Y	1.14%	1.27%	1.48%	1.51%	1.56%
3Y	1.28%	1.37%	1.58%	1.70%	1.84%
5Y	1.48%	1.55%	1.67%	1.82%	2.11%
10Y	1.76%	1.90%	2.05%	2.18%	2.65%

米国債券市場は、ホルムズ海峡の開放が実現せず原油相場が反発したものの、過度に悲観的にならず様子を見る姿勢から、下落（利回り上昇）は限定的で、パウエルFRB議長に対する捜査終了を受けて下げ（利回り上昇）幅を縮小する展開。

中国債券市場では、世界的な利回り反発局面とは一線を画し、短期資金市場の金利水準の一段低下も手伝って、利回りは一段と低下。イーロードカーブは、全体的に下方にシフトを続ける中で、利回り低下余地の小さい利率債の長期ゾーンが下げ渋ったことから等からスティーピングに転じており、クレジットスプレッドは長期で縮小に転じている。

この結果、10年米国国債利回りは4.30%（前週末比+5bp）へと上昇に転じ、10年中国国債利回りは1.76%（同±0bp）と変わらないことから、利回り差は254bp（同+5bp）へと拡大に転じている。

4. 先物為替市場

	USD / CNY
1M	-142.0 / -140.0
3M	-423.0 / -420.0
6M	-830.0 / -828.0
9M	-1,230.0 / -1,225.0
12M	-1,599.0 / -1,590.0

対ドル基準レートは6.8674と前週末比+52pipsのドル高元安、対円基準レートは4.2944と同-68pipsの円安元高と、対ドル基準レートは5週間振りの前週比元安に転じたが、引き続き市場実勢対比では大幅な元安水準での設定が続いている。

中国国内市場では、概ね前週末水準の1ドル=6.82前後で始まり、米国とイランとの停戦延長決定と中国人民銀行による市場実勢対比大幅な元安水準での基準レート設定を受けて小幅な動きに終始したが、週末にかけてはイラン情勢の不透明感が再び増して有事のドル買いとなり、1ドル=6.83台半ばのドル高元安で週末を迎えている。

先物は、直物市場での元高が一服し、インフレ懸念や次期FRB議長を巡る思惑からドル金利が高止まる一方、人民元金利が低下していること等から、ディスカウント幅は徐々に拡大し、1年物では-1,500台後半まで低下している。

5. 金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	1.44%		1.40%
6M	1.44%	1.45%	1.40%
9M	1.45%	1.46%	1.40%
1Y	1.45%	1.47%	1.40%
3Y	1.50%	1.53%	1.40%
5Y	1.57%	1.60%	
7Y	1.64%	1.68%	
10Y	1.72%	1.78%	

金利スワップ市場は、短期の基準金利が更に低下し、債券利回りも低下を続けていることから、スワップ市場の金利水準も低下したものの、その低下幅は限定的であったことから、スワップスプレッドは更に拡大している。

6. その他（週末に公表された経済指標等）

- ・米国と欧州連合は、レアアース等の重要鉱物の生産と供給確保に関する覚書に調印。
- ・米国は、イラン側の責任者が不明として、同国との和平協議再開を見送り。
- ・ホワイトハウス記者会主催の晩餐会で発砲事件発生。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入